柔道事故_頭部 頚椎損傷　2015 年－2016 年

2015 年（1）
http://www.city.fukuoka.lg.jp/kyoiku-iinkai/seitosido/ed/judohoukokusyo.html
福岡市教育委員会

福岡市立中学校柔道事故調査報告書について

平成 27 年 5 月 22 日，福岡市立中学校の柔道部の活動中に発生した死亡事故について，福岡市教育委員会は，事故を検証し，再発防止策を提言
することや，柔道を指導する際の安全指導などについて検討を行うため，外部有識者で構成される福岡市柔道安全指導検討委員会（以下，検討委
員会）を設置しました。

平成 27 年 12 月 24 日，検討委員会から福岡市教育委員会に対して，福岡市立中学校柔道事故調査報告書（以下，調査報告書）が提出されました
ので，その内容について公表します。

「再発防止に向けての具体的取組」について（概要）

1　練習計画
●初心者の指導計画を作成し，個々の体力・技能レベルに応じた基礎体力づくり，「受け身」や「投げられる練習」を徹底する。
●初心者は「受け身」を主とした練習を最低３～４か月間以上行い，危険性のある技で「受け身」の練習をしない。
2　指導
●指導者は，「受け身」を徹底して指導するとともに，直接，初心者と組み，「投げの技」や「受け身」の習得の程度を把握する。
●指導者は，生徒の体格差や能力差，利き腕や「得意技」などの特性をしっかりと理解し，個人の体力や習熟度に応じたきめ細かな指導を行う。
3　生徒把握・健康管理
●健康や安全に関する体調チェックシート，部活動日誌などに，生徒の健康状態や練習の記録を残す。
●頭部打撲や頭痛，体調不良の場合，必ず，顧問は生徒と面談を行い，頭痛などの原因や状態を確認し，練習を止めさせる。また，原因不明の場合，
顧問は医者の診断を受けるよう指示する。練習再開にあたっては医師の診断を受ける。
4　その他
●全柔連「柔道の安全指導」を生徒や保護者に配布し，技の危険性や頭部外傷について生徒・保護者とともに理解を深める。
●柔道部顧問と生徒は，中体連柔道専門部が県柔道協会の協力を得て開催する「福岡市中学校柔道安全講習会」に必ず参加する。また，中体連柔道
専門部は顧問に受け身等の習熟度の確認の仕方について周知，徹底を図る。

柔道事故調査報告書について　　福岡市立中学校柔道事故調査報告書　（722kbyte）

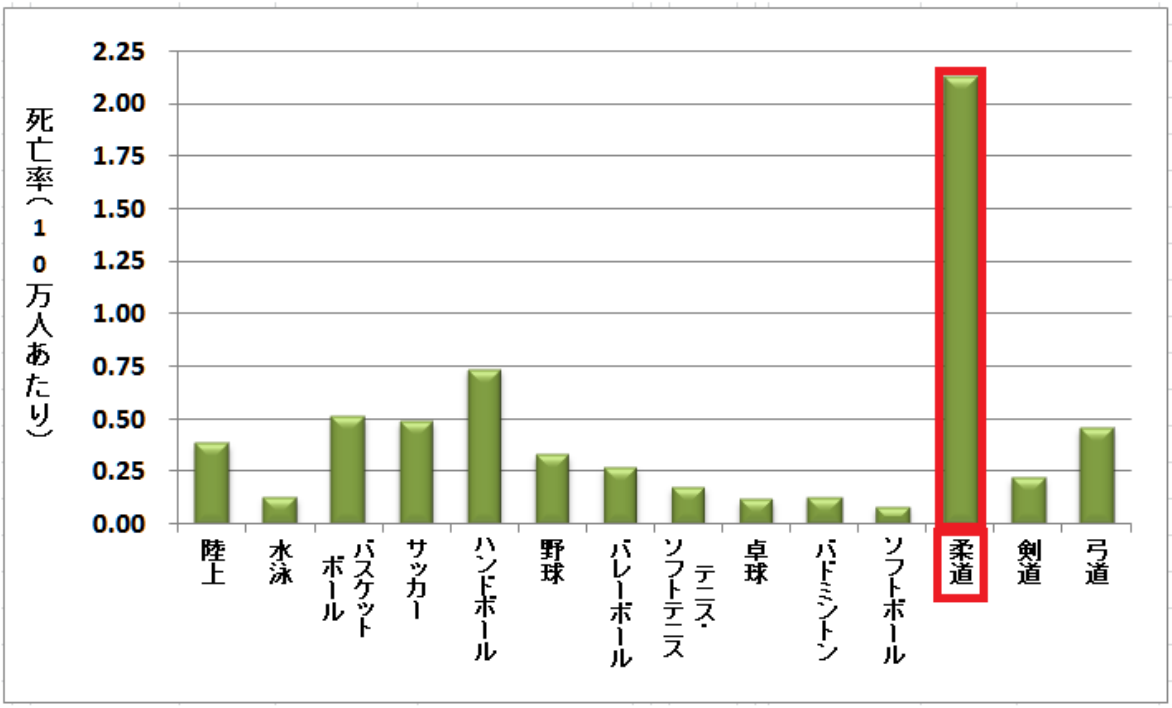
（１）　事故の概要

事故は，平成２７年５月２２日（金）１８時４０分，福岡市立中学校の武道場において，顧問１名，ボランティア指導員２名の計３名の指導のもと，中学　２年女子生徒（以下，関係生徒）が「大外刈り」をかけ，柔道初心者である当該生徒が転倒し，頭部を打撲し意識不明となった。その後直ぐに，救急搬送し，緊急手術を行ったが，５月２７日（水）１０時３５分に亡くなったものである。 事故発生当日の全体練習では，回転運動を含む準備運動をした後に，「受け身」　や「打込み」などを行い，１８時１０分頃に「元立ち練習」，１８時３０分頃に「投込み」（５本×５人）を行い，当該生徒は，「元立ち練習」や「投込み」で，「受け身」の練習である「約束練習※)」を行っていた。当該生徒は，「投込み」で，１人目の際に柔道経験者である他の１年女子生徒　から「背負投げ」で，ゆっくりと５本投げられた。この時，「受け身」を受け損なったり，頭を打ったりした様子はなかった。また，２人目，３人目の際には，当該生徒は，周囲の練習の様子を見学した。４人目の際に，柔道経験者である　関係生徒から１本目で「大外刈り」をかけられ事故が発生した。

※）　「約束練習」とは，投げる側の生徒が投げる前に技を言い，受ける側の生徒がその技を　前提に「受け身」をとる練習方法である。

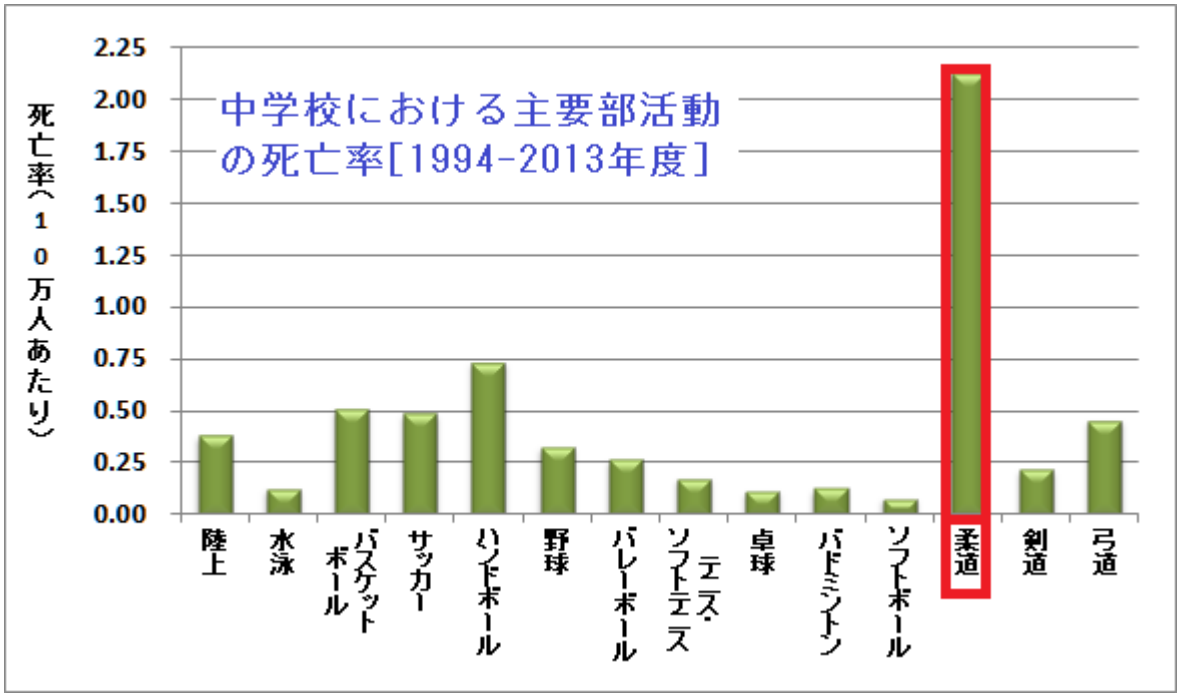
https://www.youtube.com/watch?v=Sqtr6Dhms1I　【悲報】柔道技で中１女子死亡
　大外刈り（「だいそとがり」ではなく「おおそとがり」が正しい）

http://bylines.news.yahoo.co.jp/ryouchida/20150529-00046132/
１１９人目の犠牲者　福岡市立の中学校で柔道死亡事故　典型的な事例　指導内容の徹底した検証を
内田良　名古屋大学大学院教育発達科学研究科・准教授　2015 年 5 月 29 日　5 時 30 分配信



中学校における主要運動部の死亡率［1994-2013］

■学校柔道　１１９人目の犠牲者

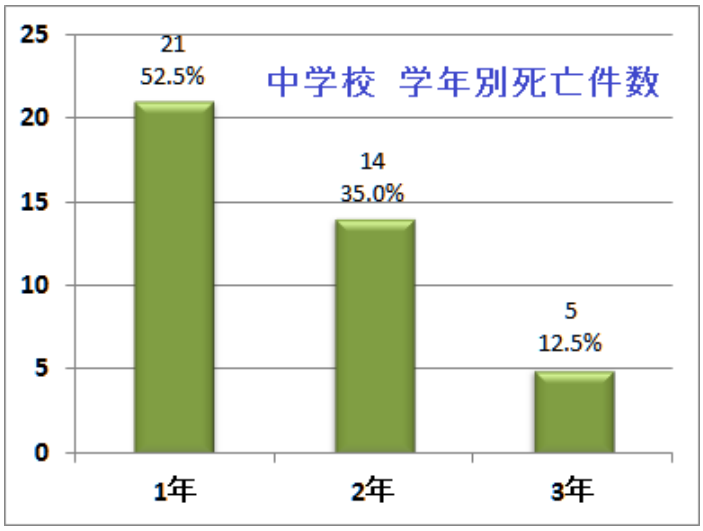


福岡市立の中学校において、柔道部の練習で、1年生の女子生徒が、2年生の女子生徒に大外刈りをかけられ頭部を打ち、死亡した。5月22日に事故が起き、27日に帰らぬ人となった。

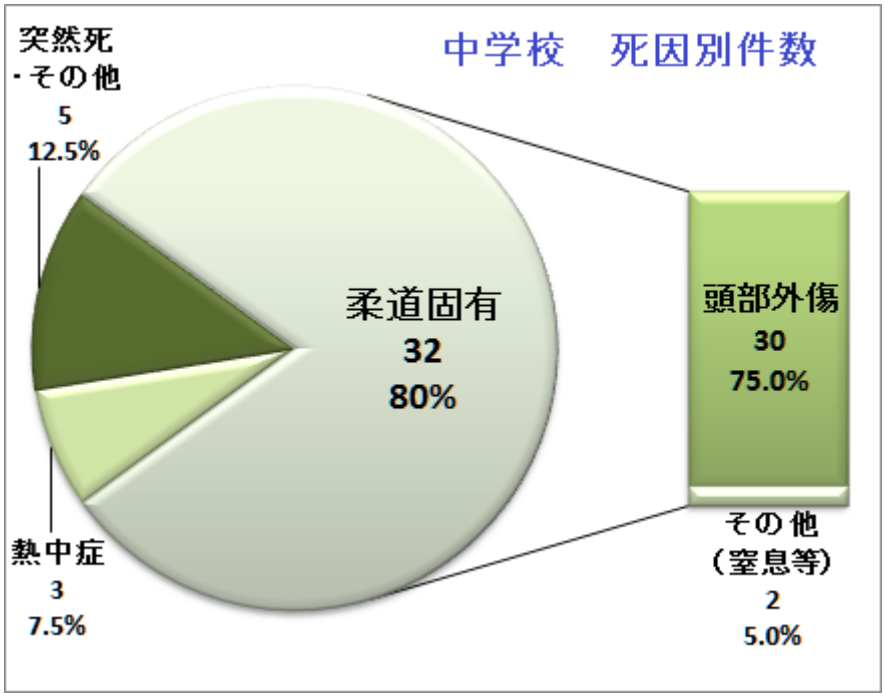
1983年度以降、学校柔道で１１９人目の犠牲者である。

柔道は、主要部活動のなかでも突出して死亡率が高い。それでも、2012～2014年度の3年間は、全日本柔道連盟の尽力あって死亡ゼロが続いてきた（「柔道事故　死亡ゼロが続いていた」）だけに、今回のケースは私を含め関係者には大きな衝撃を与えた。

■典型的な事故事例—1年生の頭部外傷に要注意



中学校における学年別の死亡件数［1983-2013］



中学校における死因別の死亡件数［1983-2013］

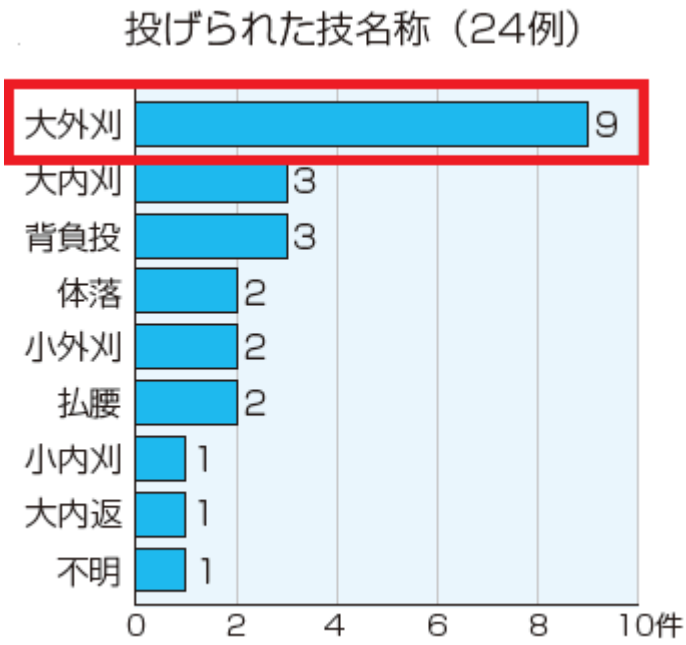
そしてそれ以上に衝撃的だったのは、今回のケースが**死亡の「典型的な事例」であった**点だ。全日本柔道連盟が、この数年ずっと注意喚起を続けてきた、まさにその事例が、またもや起きてしまったのである。

これまで私がおこなってきた柔道死亡事故 118 件の分析【注】からは、その最重要な知見として、(1)事故は中高いずれも 1 年生（初心者）で多発している、(2)死亡の主たる原因は柔道技による頭部外傷である、という 2 点が得られている。

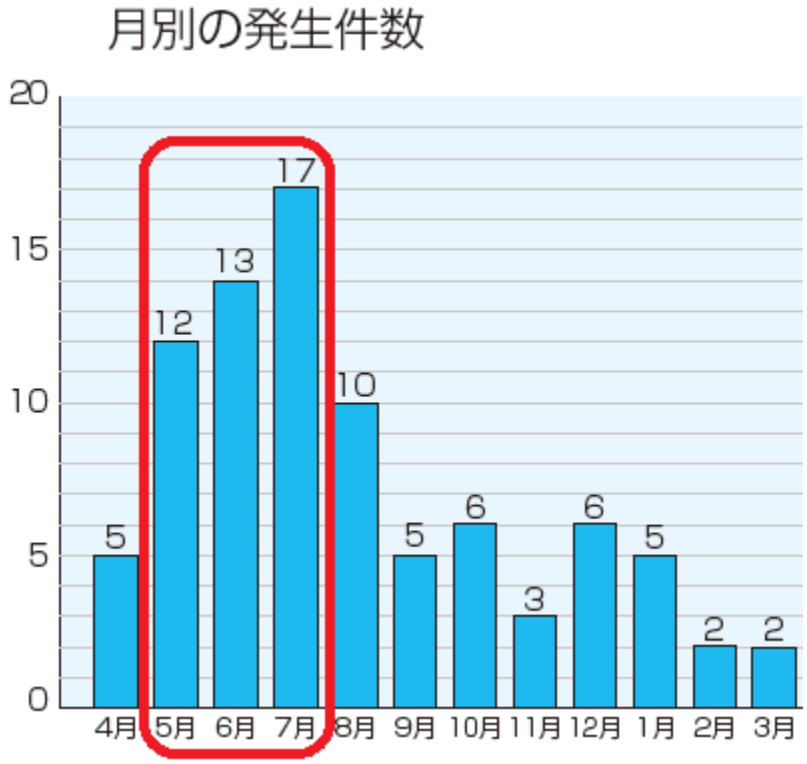
実際に、柔道事故の実態を踏まえて作成された全日本柔道連盟の『柔道の安全指導〔2011 年第 3 版〕』には、その 1 ページ目において、「特に、若年の初心者が頭部や頸部を負傷し、重大事故になるケースが顕著です」と警告が発せられている。

そしてまさに今回の事故は、(1)柔道がまったく初めての生徒が、(2)投げ技による頭部外傷で亡くなっている。頻発してきた「典型的な事例」が、再び起きてしまったのである。

■5 月～7 月、大外刈り



全柔連による重大事故の分析：技の種類（赤枠は筆者）



全柔連による重大事故の分析：事故の発生月（赤枠は筆者）

先の全日本柔道連盟『柔道の安全指導〔2011 年第 3 版〕』には、2003 年以降の重大事故 86 件が独自に分析されていて、今回の事故に関連する重要な知見がいくつか示されている。そのうち、2 つを手短に紹介しよう。

一つが、技の種類である。全柔連の分析では**「大外刈り」で重大事故が多く起きている**。大外刈りは真後ろに倒されるため、後頭部をそのまま打ちつけてしまう。今回のケースも、生徒は大外刈りをかけられて亡くなった。柔道事故に詳しい者は「またか」と感じたことだろう。

もう一つが、時期である。**事故は５月から８月の間に集中している**。全柔連の安全指導啓発動画では、**「4 月に入部して受け身の習得が不十分なときに無理な稽古をおこなったことが考えられます」**と説明されている。今回は、まさに入部して間もない柔道初体験の生徒が、命を落としている。

■初心者には技能や体力に応じた段階的な指導が重要

報道によると、「市教委は『指導方法に問題はなかった』」（毎日新聞）との認識のようである。これが字義通りだとすれば、あまりに安易な結論であると言わざるを得ない。

すでに見てきたデータからわかるように、**柔道初心者の頭部外傷を防止することは、今日の柔道指導者に課せられた重要な責務である。初心者には技能や体力に応じて段階的かつ慎重に指導がおこなわれるべきである。**

亡き生徒は、大外刈りをうまく受けられるほどに受け身を習得できていたのか、相手（2 年生）との技能や体格の差はどうだったのか、指導者はどこまでこれらの安全に配慮していたのか。活動する生徒をその場で「見ていた」だけでは、何の安全指導にも当たらない。指導の内容が、丁寧に検証される必要がある。

■頭部外傷のくり返しはなかったか

最後にもう一点だけ、「事故の前に、この生徒が頭痛を訴えていたとの情報もある」（朝日新聞）ということに触れておきたい。

もし、これが事実だとすれば、指導者の責任はさらに重くなるだろう。**今日のスポーツ科学の世界では、脳振盪（頭痛、めまい、吐き気等の症状）が疑われる状態での競技復帰は、原則許されていない。なぜなら、脳振盪をはじめとする頭部外傷のくり返しは、致命的な事態をもたらすと考えられているからである。**

いま福岡市教育委員会がなすべきことは、中立的な立場での一刻も早い情報収集と事実究明である。事実をうやむやにしては、再発防止につながらない。死亡事故をカウントするのは、もうこれで最後にしたい。

【注】 学校管理下で起きた 118 件の死亡事故を含む、柔道事故問題の全容については、拙著『柔道事故』を参照されたい。

2015 年（2）
http://www.asahi.com/articles/ASH723F4FH72TPJB002.html
柔道部員が一時意識不明、練習で頭打つ　大分の高校　朝日新聞 2015 年 7 月 2 日

大分県立中津北高校（同県中津市）で５月、柔道部の男子生徒が練習中に頭を打ち、一時意識不明の重体になっていたことが２日、同校や県教委への取材でわかった。
その後、生徒は意識を回復したが、今も入院中だという。

同校などによると、柔道場で５月２１日午後５時ごろ、男子生徒は２人１組で技をかけあう試合形式の練習で大内刈りをかけた際、技を返され、後頭部を畳に打って意識を失った。
学校側が約１０分後に１１９番通報してドクターヘリで同県由布市の病院に運ばれ、緊急手術を受けた。
同校によると、現在も治療のため話ができない状態だという。

練習には柔道経験のある顧問の男性教諭１人が立ち会っていたという。
同校は取材に「練習中の事故防止のために部顧問の会議を開くなどして、再発防止に取り組んでいく」と話している。

柔道の部活動では、福岡市の中学校でも５月に１年生の女子部員が死亡する事故が起きている。
（稲垣千駿）

http://www.sankei.com/affairs/news/160114/afr1601140029-n1.html
高校柔道部事故は「偶発的」　顧問の指導に「問題なし」　大分県教委・第三者委
産経ニュース 2016 年 1 月 14 日

大分県中津市の県立中津北高校で昨年５月、柔道の部活動中に男子生徒が後頭部を打ち一時意識不明となった事故に関し、県教育委員会の第三者委員会は１４日、「偶発的に起きた不慮の事故で、顧問教諭の指導や対応に問題は認められない」とする報告書をまとめた。

柔道部の活動計画や監視体制、設備などにも問題はなかったと結論付けた。同時に、一層の安全対策を求めた。報告書の提出を受けた工藤利明教育長は「提言を踏まえ、再発防止に向けて努力していきたい」と述べた。

2016 年（1）
http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201605/20160513_13044.html
柔道の試合後に部員死亡　仙台の私立高　河北新報 2016 年 05 月 13 日金曜日

仙台市内の私立高校の柔道部に所属する３年の男子部員（１７）が部活動の試合中に大けがをして、半

月後に死亡したことが１２日、分かった。

学校によると、男子部員は４月２５日、校内の柔道場で行われた県高校総体への出場者を決める部内の試合に出場。投げ技をかけた後、バランスを崩して頭から倒れ、頸椎（けいつい）と脊髄を損傷したという。審判を務めていた顧問の男性教諭が１１９番した。

男子生徒は病院で手術を受けたが、今月１０日午後、死亡した。試合は全部員が見守る中で行われていたという。柔道部は現在、全体練習を自粛している。

学校の副校長は河北新報社の取材に「亡くなった生徒の冥福を祈りたい。長期的に部員の心のケアを行っていく」と話した。

http://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201605/20160514_13044.html

学校柔道安全配慮を　死亡事故で注意喚起へ　河北新報 2016 年 05 月 14 日土曜日

仙台市内の私立高柔道部に所属する３年の男子部員（１７）が部活動中に大けがして死亡した事故を受け、県教委は１３日、柔道の部活と授業について注意喚起の通知を県内全ての中学高校に出す方針を決めた。

通知文書は１６日にも送付する予定。死亡事故の経緯を説明した上で、（1）技能に応じた指導（2）無理な技をかけさせない（3）応急処置の確認（4）子どもの健康状態の把握ーの順守を求める。

男子生徒は４月２５日、部内の試合中に投げ技をかけた後、バランスを崩して頭から倒れ、頸椎（けいつい）と脊髄を損傷。病院で手術を受けたが今月１０日に亡くなった。

http://bylines.news.yahoo.co.jp/ryouchida/20160516-00057737/

学校柔道 121 件目の死亡事故　中上級者の頚部事故に向き合う

内田良　名古屋大学大学院教育発達科学研究科・准教授　2016 年 5 月 16 日 14 時 43 分配信

■今年もまた…

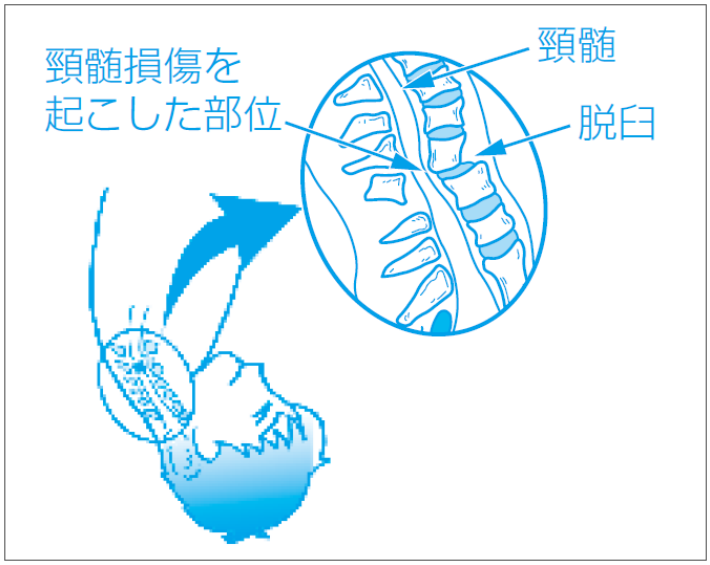
人知れず、学校の柔道でまた生徒が死亡した。事故が起きたのは 4 月 25 日、そして今月の 10 日に死亡、河北新報が第一報（「柔道の試合後に部員死亡」）を 13 日に報じた。**学校の柔道では 1983 年度以降、121 件目の死亡事故**である。

世界柔道選手権大会で袖釣込腰をかけた際に頚部を損傷した事例（全柔連『柔道の安全指導〔第 4 版〕』）

私が知る限り、この事案を報じたのは河北新報（続報 1 本を含む）のみである。この重大事案は、いまにも忘れ去られようとしている。

重大事故の防止においてもっとも大切なのは、重大事故から学ぶことである。**各事案がまるでなかったかのように忘れ去られていけば、私たちは何も学ぶことができず、また同じ事故が繰り返されていく。**

■頚部を損傷



頚髄損傷のメカニズム（全柔連『柔道の安全指導〔第 4 版〕』）

この事故は、柔道における典型的な頚部外傷の事案である。

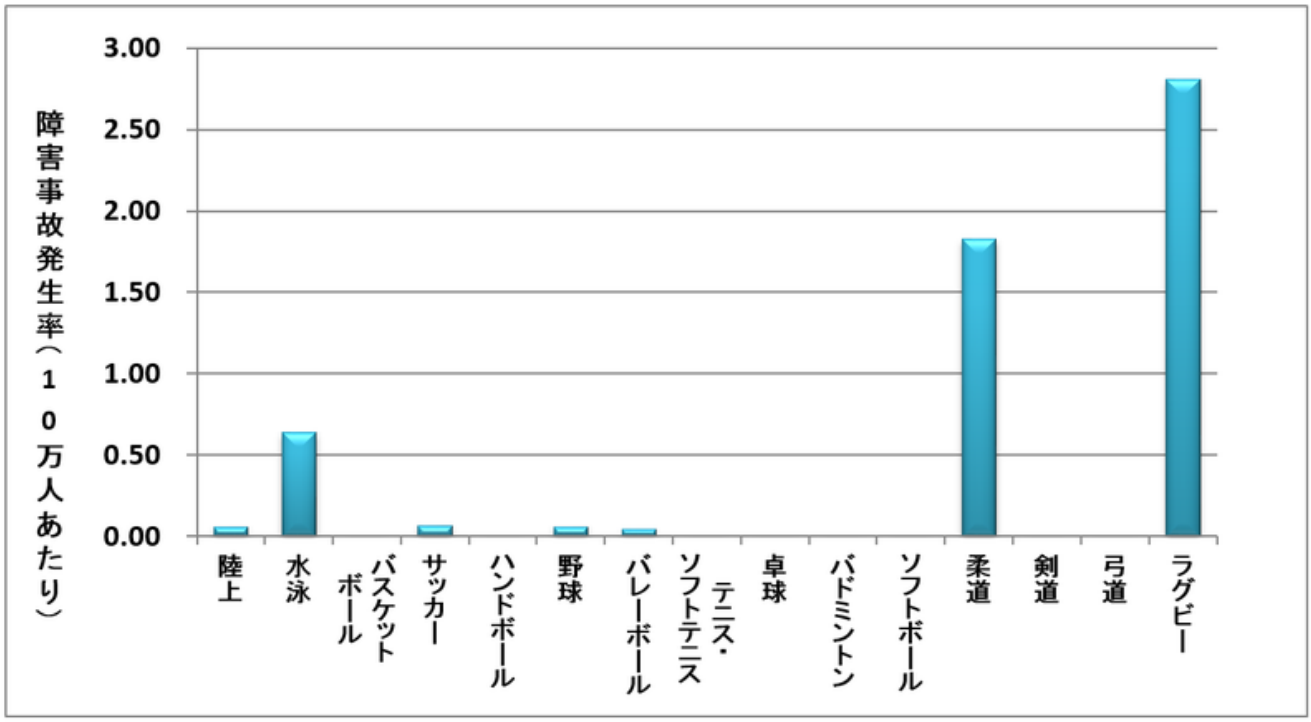
事故は、仙台市内の私立高校で起きた。亡くなったのは柔道部 3 年の男子生徒。県高校総体への出場者を決める部内の選考会で、試合に出ている最中の出来事であった。

生徒は投げ技をかけた際に、バランスを崩して頭から倒れていき、頚椎と脊髄を損傷したという。すぐに病院に運ばれたものの、約 2 週間後に帰らぬ人となった。

■ラグビー、柔道、水泳に多い頚部外傷

学校におけるスポーツ事故の実態を調べてみると、頚部外傷による死亡事故は、それほど多くは起きていない［注 1］。頚部の事故の場合、（柔道に限らず）死には至らずとも、（重度の）障害を残すケースが多い。

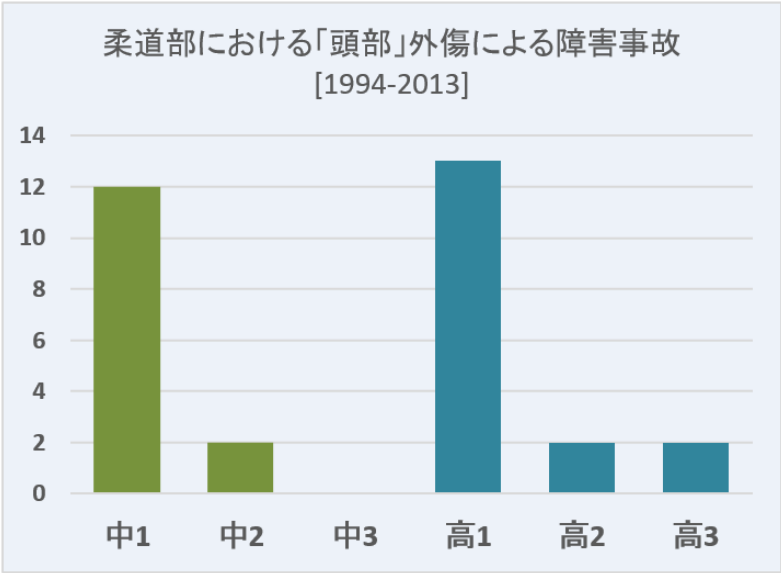
学校管理下の事故については、「障害」というカテゴリで事故事例を集約・分析することができる。そこで、主要部活動にける 20 年分（1994-2013 年度）の「障害」事例を拾い上げて、分析にかけた［注 2］。



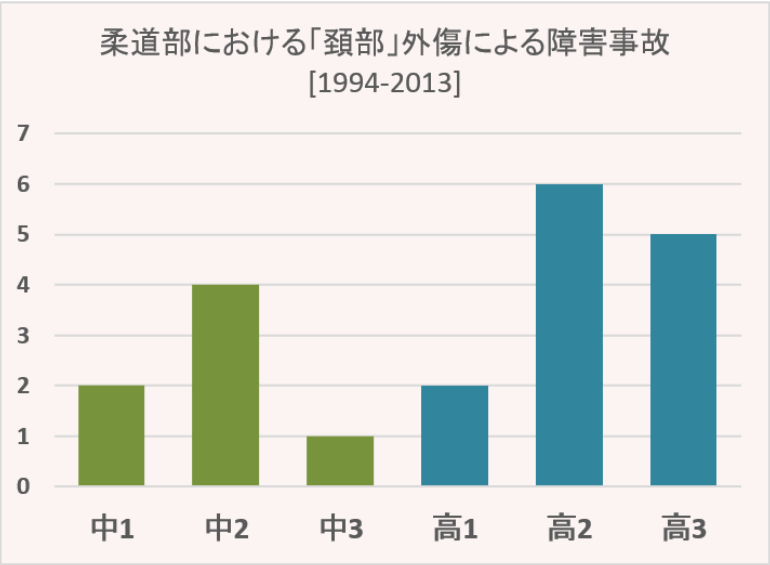
高校の主要部活動別にみた過去 20 年間における頚部外傷による障害事故の発生率

まず頚部外傷による障害事例について、高校における事故の発生率を算出すると、ラグビー、柔道、水泳が、他の競技種目と比べてとくに発生率が高いことがわかる。**柔道事故についてはここ数年、頭部外傷（脳振盪や急性硬膜下血腫）の危険性が繰り返し指摘されてきたが、頚部外傷についてはまだ注意喚起が不十分である。**頚部外傷に関して、事故実態の検証と事故防止の啓発が不可欠である。

■中上級者における頚部の事故



頭部外傷による障害事故は、中高いずれも初心者に起きやすい



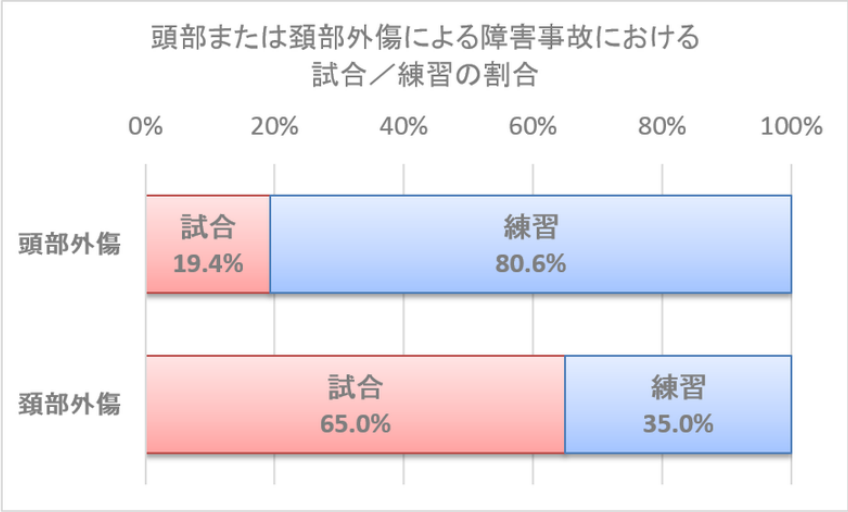
頚部外傷による障害事故は、中上級者に起きやすい

次に、柔道に絞って、学年別の件数を調べた。頭部外傷による障害と比較すると、頚部外傷の特徴がはっきり浮かび上がってくる。

頭部外傷は中学校と高校いずれも一年生で多発している。初心者に事故が起きやすいとみるべきであり、これは柔道関係者の間で周知の事実となっている。

他方で、頚部外傷は中学校よりも高校で多く発生し、さらに 2 年生や 3 年生で事故が起きている。**頭部の事故が初心者であったことを想起するならば、頚部の事故は中上級者あるいは実力者に起きやすい**と言うことができる。なお、全日本柔道連盟『柔道の安全指導〔第 4 版〕』においても、「初心者ではなく、ある程度の柔道経験者が受傷」と指摘されている。

■試合と練習



頚部外傷による障害事故は、練習よりも試合中に起きやすい

最後に、試合と練習のちがいを示したい。引き続き、頭部と頚部の事故を比較してみると、頭部外傷による障害事故のうち、試合中に起きているのは 19.0%に過ぎない。

他方で、頚部外傷の場合には、試合中が 65.0%を占めている。試合時間は練習時間に比べれば、時間も日数もかなり限られているはずであるから、試合中における頚部外傷の発生頻度（密度）はかなり高いと言える。

そして、さきほどの学年別の分析も踏まえるならば、**頚部外傷の事故は、中上級者が真剣勝負を繰り広げるなかで起きている**とみることができる。

■事故防止に向けて

今回の仙台の事案は、高校 3 年の男子生徒が、県大会出場のための学内選抜の試合に出場するなかで発生した。状況からは、それなりに実力がある者どうしの闘いだったと推察される。

頚部の事故は、実力者たちが投げたり投げられたりするなかで、何とか勝とうとあるいは負けまいと、体勢に無理を強いるなかで起きていると考えられる。初心者が頭部を損傷する事故と異なり、中上級者が真剣勝負で頚部を損傷する事故を防ぐのは、けっして容易ではない。

トップ　速報　写真　映像　雑誌　個人　ビジネス　特集

新着記事一覧　国内　国際　経済　エンタメ　スポーツ　IT・科学　ライフ

柔道事故　死亡ゼロが続いていた――マスコミが報じない柔道事故問題「改善」の事実

内田良　｜名古屋大学大学院教育発達科学研究科・准教授
2014年12月7日 6時25分配信

年度	場所	学年	性別	死因	件数
2009	学校(部活動)	中1	男	頭部外傷	4件
	学校(部活動)	中1	男	頭部外傷	
	学校(部活動)	高2	男	頭部外傷	
	学校(部活動)	高1	男	頭部外傷	
2010	学校(授業)	中3	男	突然死	7件
	学校(部活動)	高3	男	頭部外傷	
	学校(部活動)	中1	男	頭部外傷	
	学校(部活動)	高1	男	熱中症	
	学校(部活動)	中3	男	頭部外傷	
	町道場	小1	男	頭部外傷	
	町道場	小1	男	頭部外傷	
2011	学校(部活動)	高1	男	頭部外傷	3件
	学校(部活動)	高1	男	熱中症	
	学校(部活動)	高1	男	頭部外傷	
2012	0 件				
2013	0 件				
2014 (11月現在)	0 件				

内田良「柔道事故　死亡ゼロが続いていた」（2014 年 12 月 7 日）

しかし、**だからといって諦めては、事故は繰り返されるだけである。かつては柔道の頭部外傷でさえ、「柔道だから仕方ない」と言われたものだ。それでも、全日本柔道連盟が安全対策に乗り出し、重大事故は一気に減少した**（「柔道事故　死亡ゼロが続いていた」※ただし、昨年度に死亡ゼロ記録は止まる）

頸部の重大事故を、いかに減らすことができるか。今回の事故を忘れ去ることなく、大事な教訓として、私たちはここから学んでいかなければならない。

［注 1］　筆者の集計では、1983～2014 年度までにおいて部活動時の死亡事故では、頭部外傷によるものが 178 件、頚部外傷によるものが 12 件である。

［注 2］　学校管理下の事故については、「障害」というカテゴリで事故事例を集約・分析することができる。そこで、日本スポーツ振興センター刊の事故事例集をもとに、主要部活動における 20 年分（1994-2013 年度）の「障害」事例を拾い上げて、分析にかけた。

障害事故の発生率の算出にあたっては、頚部外傷による障害事例について、高校で発生した事故件数を各部活動の部員数で除した。

2016 年（2）
http://www.asahi.com/articles/ASJ7N3SLVJ7NUTQP00S.html
練習中の柔道部員、頭打ち意識不明　群馬・館林の中３　朝日新聞 2016 年 7 月 20 日

群馬県館林市立の中学校で５月３１日、柔道部の練習中の事故で３年の男子部員が頭を打ち、急性硬膜下血腫で意識不明になったことが２０日、わかった。男子部員は合併症で手術を受け、今も意識が戻っていない。

事故は、２人組で事前にかける技を相手に知らせる練習で、大内刈りから大外刈りの連続技をうけた際に、柔道場の畳に頭を打って起きた。当時、柔道経験のある副顧問が指導していた。同市教育委員会によると、男子部員は細身で、大柄な生徒と組んでいたという。

http://mainichi.jp/articles/20160721/k00/00m/040/092000c
柔道事故
練習で中学生重体　体格差６９キロ　群馬・館林　毎日新聞 2016 年 7 月 20 日

群馬県館林市の市立中学校で５月に柔道部の練習中に３年生の男子部員（１４）が同級生に投げられて頭を打ち、急性硬膜下血腫で意識不明の重体になったことが２０日分かった。現在も意識は戻っていない。男子生徒は約１６０センチ・４８キロで、相手は約１７５センチ・１１７キロ。市教委は事故の背景に体格差があった可能性もあるとみて、練習態勢に問題がなかったか調べている。

＜館林市教委、事故公表せず＞
市教委によると、５月３１日午後６時８分ごろ、学校の柔道場で、事前に技を相手に知らせてかけ合う練習中に、大内刈りから大外刈りの連続技を受け、畳に頭を打った。男子生徒が頭が痛いと訴えたため、指導していた副顧問の２０代の教員が生徒を休ませたが、その後、意識を失って倒れたという。副顧問は柔道三段だった。
２．４倍の体重差について、学校でのスポーツ事故を研究する名古屋大大学院の内田良准教授（教育社会学）は「度を越している。２人の技量は不明だが、最も頭部外傷リスクの高い大外刈りをさせていたのは、あまりに危険すぎる」と指摘。昨年５月に福岡市で中１女子が死亡した柔道事故でも、体格差が問題視されており、「体格差や技量差が、事故につながる大きな要因であることは再三指摘されており、学校の危機管理はあまりに希薄だ」と話している。【尾崎修二】

http://mainichi.jp/articles/20160722/k00/00e/040/146000c
柔道事故
館林市教委、再調査　体重差７０キロ、把握遅れ　毎日新聞 2016 年 7 月 22 日

群馬県館林市の市立中学校で５月に柔道部の３年生の男子生徒が練習中に頭を打ち現在も意識不明にな

っている事故で、市教委は２１日、事故原因や当時の指導態勢などについて再調査を始めた。顧問や副顧問ら関係者から当時の状況などを聞く。県教委も同日、詳しい事故状況を報告するよう市教委に求めた。市教委や県教委は事故が報道されるまで積極的な対応をしていなかった。

事故は５月３１日午後６時１０分ごろ発生。男子生徒は４８キロ、約１６０センチ、練習相手の同級生は１１７キロ、１７５センチ前後で、専門家からは体格差を問題視する声が出ている。

しかし、事故直後、市教委は学校からの書面での情報収集が中心で、約７０キロの体重差があったことなどを把握したのは今月２０日。しかも、２０日時点で、男子生徒が大外刈りを受けて頭を打った詳しい状況▽中１から柔道を始めた２人の現在の技量▽５０代顧問（学校行事のため当日不在）や、２０代副顧問の安全意識––などは把握していなかった。

市教委は２１日、市内の中学校５校に、柔道の部活や授業では体格差や技ごとの危険性に配慮して指導するよう要請した。授業での大外刈りは控えさせる。対応が遅れた理由について、市教委は「男子生徒の容体が心配でそちらに気が回っていた。今後はもう少し事故状況を調べる」（学校教育課）と話している。ただ、第三者委員会の設置や、調査結果の公表は予定していない。

全日本柔道連盟（全柔連）は重大事故が起きた時は学校に報告を求めているが、学校が報告したのは６月１７日だった。今年度、全柔連に報告された学校での重大事故は今回の事案を含め２件。もう１件は仙台市で４月に高校３年生の男子生徒が部活動中に頸椎（けいつい）と脊髄を損傷し、５月に死亡している。【尾崎修二】

2016 年（3）

http://www.sankei.com/affairs/news/160820/afr1608200013-n1.html

柔道練習中に中１男子が頭打ち一時意識不明　歩行、会話できず　産経ニュース 2016 年 8 月 20 日

栃木県大田原市の市立中学校で７日、柔道部の練習中に１年の男子生徒（１３）が投げられて頭を強く打ち、外傷性くも膜下出血で一時意識不明の重体になったことが２０日、分かった。生徒は１６日に意識が回復したが、歩行や会話ができず、入院してリハビリを続けている。

同校によると、男子生徒は７日午前１０時４５分ごろ、武道場で３年生の男子部員（１５）と練習中、大外刈りの技をかけられて投げられた際、畳に背中と頭を強く打ちつけた。

男子生徒は「痛い」と声を上げ一度は立ち上がったが、間もなくうずくまり前に倒れた。男性顧問（３０）が声をかけたが、意識がなく１１９番通報した。

この日の練習は試合形式ではなく、引退する３年生部員が下級生部員に技のかけ方や受け身などを指導していたという。当時武道場には顧問のほか、男性副顧問（４６）もいた。柔道部員は現在３４人。男子生徒は今年４月に入部、柔道を始めて間もなかった。

http://www.asahi.com/articles/ASJ8N32B1J8NUUHB002.html

練習中の柔道部員、頭打ち一時意識不明に　栃木の中１　朝日新聞 2016 年 8 月 20 日

栃木県大田原市の市立中学校で７日、柔道部の１年の男子生徒（１３）が部活動の練習中に頭を強く打ち、外傷性くも膜下出血で意識不明の重体になったことがわかった。約１０日後に意識は回復したが、現在も入院中で、歩行や会話にリハビリが必要な状態という。

市教育委員会によると、男子生徒は７日午前１０時４５分ごろ、武道場で３年の男子部員（１５）と２人１組で練習中、大外刈りの技をかけられた際、畳に背中を強く打ちつけ、頭も強く打ったという。男子生徒の「痛い」との声を聞いた男性顧問（３０）が呼びかけたが、生徒は意識を失っており、学校が１１９番通報した。

男子生徒は４月に入部した初心者で、３年の男子部員とほぼ同じ体格という。武道場には当時、指導歴３年４カ月で競技歴１８年の男性顧問と、指導歴４年４カ月の男性副顧問（４６）がいたという。

学校は１９日、柔道部員の保護者を対象に保護者会を開き、事故の概要や今後の対応を説明した。市教委は朝日新聞の取材に「今後このような事故が二度と起きないよう、生徒の安全を確保する指導体制をさらに強化したい」としている。

http://www3.nhk.or.jp/news/html/20160830/k10010659411000.html
柔道事故防止 指導者の研修会開催へ 栃木 大田原　NHK ニュース WEB 2016 年 8 月 30 日

今月、栃木県大田原市の中学校で、柔道部の生徒が練習中、上級生から技をかけられて頭を打ち、一時、意識不明になった事故について、市の教育委員会は再発防止策として、今後、部活動の指導者向けに研修会を開くことを明らかにしました。

今月７日、大田原市の中学校で、柔道部の練習中に、１年生の男子生徒が、３年生から「大外刈り」をかけられ、頭を強く打って、一時、意識不明になりました。
３０日、大田原市で開かれた市内の小中学校の校長を集めた定例の会議で、市の教育委員会は、事故当時、顧問の２人の教師が指導に当たり安全管理に配慮していたことや、一時意識不明になった男子生徒は、現在入院してリハビリを行っていて、検査の結果次第では、３０日にも退院することなどを説明しました。
そのうえで植竹福二教育長が、今後の事故防止策として、柔道部がある市内４つの中学校の指導者を対象に近く、初心者への指導方法などを学ぶ研修会を開くことを明らかにしました。
会議に参加した市内の中学校の校長は、「研修を行って危機管理に備えることは有意義だと思う。事故が一つでも少なくなるように努力を重ねていきたい」と話していました。

関連：＜頭部損傷の場合は硬直、次の気絶は弛緩＞
絞め技でオチた際の正しい蘇生法　https://www.youtube.com/watch?v=yZfUWLGu8mE
柔道：失神・気絶・落ちる　（1994 東京都学年別柔道大会）
　https://www.youtube.com/watch?v=yXQi8wlCNBE　（横隔膜を上げる）
武術の奥義「活法」の秘技口伝！柳生心眼流・島津兼治　https://www.youtube.com/watch?v=bKbE3zcgLic